

令和5年度 福島小学校学校評価結果の報告

1 これまでの経過

- ① 5月 重点目標の達成，努力事項に対する具体的取り組み事項の検討および外部アンケート案の作成（**校内研修**）
 - * 学校長の経営方針と昨年度の学校評価の結果を考慮し，各学年の児童の実態をもとに具体的取り組み事項を検討した。（別紙①**具体的取り組み事項参照**）
 - * 昨年度の外部アンケートと今年度の具体的取り組み事項をもとに外部アンケート案を作成した。
- ② 10月 具体的取り組み事項実践発表による情報共有と中間自己評価の実施（**校内研修**）
 - * 自分たちの取り組みについて，各自で中間自己評価を行うとともに，全体研修において具体的取り組み事項実践について分析し，具体的取り組み事項実践のための手立てを検討した。
- ③ 11月 アンケート案の検討（**学年別**）
 - * 外部アンケート案について検討し，今年度のアンケートを決定した。
- ④ 12月 2学期の実践振り返り（**学年別**）
- ⑤ 1月 外部アンケート実施およびアンケートの集計
- ⑥ 2月 アンケート結果の分析（**校内研修・学年別**）
 - 年度末自己評価の実施・来年度の課題と改善策の検討（**校内研修・グループ別**）
- ⑦ 3月 学校関係者評価実施（**評議員会**）
- ⑧ 3月 学校評価について報告（**職員会**）
 - 市教委へ報告 保護者への手紙による報告とホームページへのアップ

2 学校経営基本方針

(1) 学校教育目標

「就将」の精神を基盤として，夢や希望を抱き，未来に向かってたくましく生きる子どもの育成

(2) 重点目標

- ① 確かな学力を身に付けた子どもの育成
- ② 豊かな心で助け合える子どもの育成
- ③ 健やかで，たくましい子どもの育成
- ④ 一人一人を大切にす指導
- ⑤ 安全・安心な学校づくり
- ⑥ 保護者・地域等と協力・連携した学校づくり
- ⑦ 効率的で働きやすい職場づくり

3 児童・保護者アンケート

全学年の児童・保護者にアンケートを実施した。

(1) 児童アンケート集計結果 （別紙②参照）

それぞれの質問項目について，よくできている・大体できている・あまりできていない・できていないの4段階でアンケートを実施した。また，（よくできている・大体できている）を肯定的評価（プラス）とし，（あまりできていない・できていない）を否定的評価（マイナス）とした。

(2) 保護者アンケート集計結果 (別紙③参照)

それぞれの質問項目について、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また、(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし、(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

(3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察・分析

【良かったところ】

(児童アンケート)

- ・体験学習や交流学习に、進んで取り組んでいますか。(80%)
コロナ禍が終わり、たくさんの体験活動や交流が行われるようになり、児童が多くの人の想いや熱意にふれることができ、地域や伝統文化の良さに触れることができた。
- ・先生や友達の話、さいごまで集中して聞いていますか。(90%)
話をしっかり聞くことが、自分も友達も大事にしていることにつながっていると指導を続けている。児童中にも、相手の顔を見て話を聞く姿勢ができるようになってきた。
- ・体育の授業など、「やってみたい」と思う遊びや運動があり、楽しく活動していますか。(90%)
場の設定やルールなどを教師が工夫したり、ドッジボール大会や長縄大会などの学校行事を実施したりするなど、運動の機会が充実し、どの学年も体育が好きだと感じる児童が多かった。
- ・先生はあなたのことをほめてくれたり、ありがとうを伝えてくれたりしていますか。(87%)
運営委員会での取組だけでなく、普段から児童のできているところに目を向け、当たり前のごことに感謝を伝えたり、児童のことを承認したりするように心がけた。昨年度の79%より上昇しており、児童の自己有用感等の向上が見られる。

(保護者アンケート)

- ・毎朝、決まった時間に起きていますか。(90%)
- ・毎日、朝ご飯を食べていますか。(94%)
規則正しい生活ができるよう、生活習慣に気をつけてくださっている保護者の方が多い。
- ・交通安全に気を付け、安全な生活ができていますか。(飛び出しをしない。横断歩道を渡る。ヘルメットをかぶる。等)(90%)
学年日より等で繰り返し伝えたり、交通安全教室を開催したりするなどの学校での取り組みや、PTAや地域の登下校の見守りによって、安全に行動できる児童が増えてきている。

(共通)

- ・宿題(学校や学級の課題)をきちんとしていますか。(児童83%、保護者91%)
家庭学習の習慣が定着しており、宿題を全員提出できる学級が増えている。
- ・ひなん訓練に、真剣に参加していますか。(児童93%)
- ・学校は交通安全指導、生活安全指導、防災についての指導を適切に行っていると思いますか。(92%)
学校での避難訓練等に児童はまじめに取り組んでおり、防災や安全に対する意識を高めていっている。学校のそういった取り組みに対し、肯定的に評価している家庭が多い。
- ・友達と仲良く生活し、お互いの良さを認め合っていますか。(児童91%)
- ・困っている人に対して声をかけたり助けたりするなど、優しく思いやりのある行動ができていますか。(保護者84%)
学級や学校全体で行われている「いいところ見つけ」や「ありがとうカード」などの取組により、他

者から感謝される経験が自分の良さを見つめられることにつながっている。また、日ごろ学校の中で他者のために行っている行動が、家庭に帰っても見られるようになってきている。

【課題とその改善策】

<p>(児童アンケート)【学習について】</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動の終わりに、わかったことをまとめたり、ふりかえったりしていますか。(64%) <p>各学級で振り返りを行っているが、児童への意識づけには課題がある。</p>	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示、振り返りを確実に行う。 ・振り返りの観点をカードなどで示す。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まるまでに、学習(本やノート)の準備ができていますか。(73%) <p>次の時間の学習準備を行ってから席を立てる児童もいるが、継続して声掛けをする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のあいさつの中に、次の学習準備の声かけを入れ、班や係など、子ども同士で見合う。 ・休み時間の間にできている子どもの行動を伝え、ポジティブな行動に意識づける。 ・休み時間は次の学習の準備時間でもあることを児童に伝える。
<p>(児童アンケート)【生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間には元気に外で遊んでいますか。(70%) <p>外遊びができる環境の整備を進めているが学年が上がるにつれて休み時間を教室で過ごすことが増えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員が外遊びを推奨する。 ・先生も一緒に遊ぶ。 ・学級全体での遊びを提案し、少しずつ外遊びに興味を持てるように働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段を走らず、右側を歩いていますか。(61%) <p>まだまだよく廊下を走っていて、まずは「ろうかは歩く場所」だと継続して声かけをする必要性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員を中心に取組を続ける。 ・環境整備をして、心にゆとりをもち落ち着いて行動できるようにする。 ・教師が参加してのロールプレイをするなど、実際に起こりうる危険について考える機会をもつ。
<p>(保護者アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強や食事のときは、よい姿勢ですごしていますか。(50%) ・夜は、10時までには寝ていますか(1・2年は9時まで)(59%) ・家では、進んでお手伝いをすることができますか。(61%) <p>朝決まった時間に起きて朝ごはんを食べることはできているが、食事の姿勢や睡眠時間の確保、家庭でのお手伝いの習慣はついていない児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや保健だよりなどで、健康な生活などについて啓発や情報提供を行う。 ・どのような姿勢ですぐすとよいのか、学校で共通理解を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様と、避難訓練について話したり、防災頭巾を準備したりするなど、防災について話し合う機会はありますか。(60%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや学校からの手紙で防災についての啓発や情報提供を行う。 ・避難訓練後に家庭で話し合うことができるよ

<p>年明けに起こった地震もあり、関心がある家庭もあるが、十分とは言えない。</p>	<p>う、振り返りワークシートを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き渡しカードを4月に書く（見直す）際に、各家庭で話をしながら確認してもらう。（お手紙に記載する）
<p>・学校の様子は、学年だより・ホームページ・配布物などで知ることができていますか。</p> <p>前年度より7%減っている。ホームページのシステムが変わり、前年度よりも更新に手間がかかるようになったのも一因となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実を図るとともに、学年だより等で保護者にホームページの啓発を行う。 ・ホームページ記事作成の計画や作成時間を設定し、各学年で作成する。 ・ICT支援員とともに研修を行い、定期的に更新する。
<p>(共通) 読書について</p> <p>(児童アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室や教室の本を活用して、家庭でも読書に取り組んでいますか。(58%) <p>(保護者アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しんでいますか。(37%) <p>昨年度より家庭での読書は10%下がっている。児童の家庭での時間がゲームやYouTubeなどが読書に代わる時間になっている可能性がある。</p> <p>図書室で本を借りたり、家庭で本を読んだりするなど、本に親しむ時間を十分とれていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境整備を行う。 ・全部読まなくても本を手にする時間を確保し、習慣をつける。 ・読書カードや家庭読書冊数を調べるなどして、意識的に読書できるようにする。 ・国語にある単元の中で読書に関するものを有効に使い、児童によるおすすめの本の紹介や読み聞かせなどを行う。 ・教師が他の学級でも読み聞かせを行う。 ・読み聞かせの様子や、学校での読書の取り組みを、学年だより・ホームページなどで知らせる。
<p>あいさつ・言葉遣いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良いあいさつができていますか。(児童74%、保護者73%) ・その場に応じた言葉遣いができていますか。(保護者73%) <p>運営委員が企画したあいさつ大会の時は、あいさつを意識してよくできていたが、大会が終わるとあいさつできる子が限られているなど、定着していない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に元気な声であいさつできるよう教師が声をかけ続けるとともに、児童によるあいさつ運動を継続する。 ・気持ちのよいあいさつをしている児童を認め、全体のやる気を高めていく。 ・学年だよりやHP等で保護者に向けて啓発し、家庭での協力を仰ぐ。 ・その場その場に応じた言葉について適宜指導する。
<p>食育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食では、苦手な食べ物が出て、頑張って食べてみようとしていますか。(児童76%) ・苦手な食べ物が出たときに、頑張って食べようとしていますか。(59%) <p>嫌いな食べ物が出たときに、無理をさせることはしなくてよいが、食べ物の大切さや、作ってくれる人への感謝の気持ちをもてるようにする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや保健だよりなどで、健康な生活などについて啓発や情報提供を行う。 ・食育タイムを活用したり、栄養教諭との授業を行ったりして、食に対する意欲付けを行う。

4 自己評価

(1) 自己評価結果

教員は、学校の重点目標に照らし合わせて実践課題を設定し、具体的取り組み事項への取り組みについて自己評価を行った。（別紙④参照）

(2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について

自己評価結果からの考察	来年度に向けての改善策
<p>① 確かな学力を身に付けた子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価から年度末にかけて、自己評価の結果は上がっている。 ・教師それぞれの意識の高まりにより、学習準備や話を聞く態度なども継続して指導ができており、落ち着いて学習に取り組めるようになってきている。 ・上学年になるほど、図書室を利用する機会が減り、読書活動が行えていない。 ・校内研修で研究授業は行ったが、知識や教師のスキルを伝え合い、共有することはではない。 	<p>○自分の考えや意見を発言できる学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験や交流活動をさらに伸ばし、互いのことを知り、自分の意見を言えるような関係を作る。 ・学習の構えについて継続指導し、折に触れて振り返り、常時意識できるようにする。 ・図書室の環境を整備など、読書環境を整え、児童が本を手にとれる時間をつくる。 ・それぞれの学級で作った教材を共有する。
<p>② 豊かな心で助け合える子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きまりを守っている子やよい行いをしている子を認めて、声をかけたり、紹介したりする」では、プラス評価が100%と高く、全職員が児童へのポジティブな言葉がけを心掛けるようになった。 ・正しい行動を示し、実践したくなるような手立てを考えることの、評価が低くなっている。 ・人権アンケートで学級の実態に応じた人権教育についての項目が低くなっている。 	<p>○ポジティブ行動支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活目標に対する意見を反映させた上での取り組みを行う。 <p>○児童の実態に応じた人権教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権アンケートを実施した後に見直す機会を作る。
<p>③ 健やかで、たくましい子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価と比べると、すべての項目でプラス評価が上がっている。特に「運動が得意な子そうでない子にもその子なりのがんばりを認める」のプラス評価が100%であった。 ・「外遊びを奨励し、クラス全員で遊ぶ機会を設ける」の項目について、クラス全員で遊びことは難しい面もある。 ・授業や食事の正しい姿勢についての項目において、1評価が0%になり、教職員の取り組みや意識の改善が見られる。 ・保健・食育の家庭への啓発が上昇傾向であるが、まだ改善の余地があり「食育タイム」配付の継続をするとともに「食育通信」の発行も機会をとらえて行うようにしたい。 	<p>○運動しやすい環境の整備</p> <p>○進んで外遊びや運動をする雰囲気作り</p> <p>時期的なものも考慮して、学校全体で取り組める行事（イベント）を計画、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体に呼びかけを継続することで少しずつ外遊びに興味をもてるように働きかける。 <p>○食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前にもどり、給食試食会や幼稚園体験給食も実施できたので、そのような機会を活用して啓発をする。

<p>④ 一人一人を大切にする指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援を必要とする子どもたちが、適切な場所で学習できるように、校内の支援体制は整っている。 ・外部機関と連携を図る際の窓口が保護者にとってわかりにくい可能性がある。 ・教師の声かけや運営委員の取り組みにより、「当たり前前のことでも児童をほめたり、「ありがとう」を伝えたりする。」のマイナス評価が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人に応じた指導・支援の充実 ・教育相談、外部組織について、適宜周知を図る。 ○「ありがとう」の広がる学校づくり ・「よく頑張ったね」「ありがとう」を、意識的に児童に伝えていく。
<p>⑤ 安全・安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施や、病気やけがの対応については、防災安全主任・養護教諭のもと、全職員が共通理解をして意識的に取り組んでいることが表れている。しかし、児童が名札・上靴をきちんと着用することや防災頭巾の所持、校内での右側歩行について徹底できておらず、課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内での安全な歩行指導 ・「防災頭巾の常備を心がける」という項目については、学級担任から児童や保護者に向けて、防災頭巾を常備するように声かけをしたり、PTA参観日などで、防災頭巾についての紹介や提示をしたりする。 ・「校内では右側を歩いて通るように指導する。」という項目については、「校内では歩くように指導する」に変更し、それができるようになったら、「右側を」という言葉を付け加えるようにする。 （再来年以降で）また運営委員会活動・保健委員会・環境ボランティア委員会などで、廊下の安全な通行について全校で取り組む機会を設ける。
<p>⑥ 保護者・地域等と協力・連携した学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあけ、地域との交流をとる機会が増えてきたが、地域のよさを知るまででとどまってしまうことが多い。 ・オンラインで学校評価アンケートを行ったことで、保護者アンケート回答率が上がり、保護者の率直なご意見をいただける機会となった。 ・HPのシステムが変わったことで、記事を上げることに手間がかかるようになってしまい、HPでの教育活動の情報発信が十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との交流方法の模索 ・広く浅くではなく、テーマを絞って地域の人材や歴史について深めていく。 ・新しい地域の施設である沖洲インドアパークを活用する。 ・HPやオープンスクールなど、家庭と連携して深める機会をもつ。 ○学校ホームページの充実 ・細かなHPの更新・充実・学年の行事予定をICT支援員と協力して行う。 ・PTA広報部と連携する。 ・学年・学校の担当者をはっきり決め、学校行事や学級の様子を発信を随時していく。 ・年度初めにHPの記事投稿について研修する。
<p>⑦ 効率的で働きやすい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループウェアを使った情報共有」はプラス評価が90%となっている。STORKについては、見 	<ul style="list-style-type: none"> ○声をかけ合い、学び合う「チーム福島」 ・お互いのクラスやフロアの先生の普段の授業を

<p>る側は毎日必ず確認し、発信する側はなるべく早めに発信することや急な場合は放送も併用するとよい。また、校務支援システムはタブレットでも見られるようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修担当が研究授業を見る機会を設定してくれたが、研究授業以外に互いの授業を見合う機会はあまりなかったため、全員が公開授業等を行うことがなかったため、若手が見に行けてない。 ・今年度は休職された先生も多く、学年団の先生がいない状況が続いた。業務が多い職員は、目標の退勤時刻に週に1度程度帰ることも難しく、年度末で43%がマイナス評価と課題が大きい。 	<p>見合えるように、普段から教室のドアや窓は開けておく。指導案がなくても気軽に参観できるように、メンター、研修主任と相談して計画的に行い、授業公開ウィークを作る。</p> <p>○業務の精選と超過勤務時間の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団に支援学級担任も入ってもらい、授業づくりやTT体制も、支援学級担任を含む学年団で行う。 ・退勤時刻を学年ごとに相談して決め、宣言する。帰る日を宣言する ・業務の少ない先生、臨時の先生にも仕事の割り振りを行い、一部の教員が業務過多にならないように校務の担当を話し合う。 ・5時間授業で終わる日を1日増やしたり、昼休み等を5分短縮したりするなど、日課の見直しを行う。
--	--

5 まとめ

今年度は、コロナウイルス感染症が第5類になり、いろいろな活動が再開できる年になった。体験学習や様々な交流活動により、児童が多くの人やものに積極的に関わることができた。友達との関わりの面でも、児童がお互いの良さを認め合っている様子や、学級や学校全体で取り組んだ「ありがとうカード」等の取り組みをもとにして、他者から感謝される経験と、学校の中でも他者のために行うよい行動が家庭に帰っても見られている。一人一人のよさを認めることとして、全職員が児童へのポジティブな言葉かけを心がけている。このような日々の取り組みによって少しずつ子ども達の自己有用感等の向上も見られているので継続していきたい。

一方で、家庭で過ごす時間がゲームやYouTube等に費やされ、読書に親しむことが難しくなっている現状が見られる。また、よい姿勢、就寝時間、家庭での手伝い等にも課題が見られた。保護者との連携や啓発を今後も推進していくことで、基本的な生活習慣等の改善を図っていきたいと考えている。

先に挙げてきた結果および改善策をもとに、学校評議員の方々からご意見をいただき、次年度への課題と今後の改善方策について検討を行う。次年度は、それらに沿って学校改善に努め、重点目標達成に向けた取り組みを推進したい。